

2009年度前期情報リテラシー実践Ⅰ授業評価報告

情報教育検討部会長、大学教育センター教授

永井 正洋

はじめに

本稿では、2009年度前期末に行った、情報リテラシー実践Ⅰに関する授業評価アンケート（SE、TE）の結果を報告する。

まず、アンケートの質問項目だが、昨年度と変わっていない。次に回答方法に関しては、2007年度から3年間、eラーニングシステムを用いてアンケートを実施してきたが、SEでのシステム利用のクラスの割合は48.6%（2007年）、89.5%（2008年）、97.3%（2009年）と増加している。また、TEについても44.8%（2007年）、84.6%（2008年）、96.0%（2009年）と増えている。

この授業評価アンケートに先立ち、本年度で4年目となる学生の情報リテラシーに関するレディネス調査を、4月に実施したが、2009年度も、多くの調査項目（71.4%）で昨年度と比べ伸長が認められた。したがって、学生の情報やコンピュータに関して使えるという意識は、徐々に高まってきていると考えられる。しかし、多くの項目で未だできるという回答が全学生の50%を超えておらず、その意味であまり身に付いていないと学生は認識しているようである。更に、客観テストからは、本学は他11大学の平均と比べ、昨年度と同様、有意に低い得点となっており、基本的な情報リテラシーを欠く状態であることが分かる。

ここで、主に基礎・基本的な情報活用能力の育成をねらっている情報リテラシー実践Ⅰは、標準として、『情報倫理、コンピュータやネットワークの仕組み、e-mail、Web検索、文書編集、表計算、プレゼンテーション』といった学習内容から成り立っている。したがって、前述のような状態で学生のレディネスが2年間あまり変わっていないことを考えると、上記内容は適当であることが推察されるが、本稿では実際、どのように授業が評価されたのかということを中心に述べていく。

方法

以下の様に授業評価アンケートを実施した。

実施時期：2009年7月6日～7月23日

学生による授業評価（SE）：

対象：首都大学東京 情リテⅠ受講者

回収人数／全人数：1376人／1722人（79.9%）

方法：BlackBoard（38クラス）

マークシート（1クラス）

教員による授業評価（TE）：

対象：首都大学東京 情リテⅠ担当教員

回収人数／全人数：35人／48人（72.9%）

方法：BlackBoard（24人）

マークシート（1人）

結果と考察

図1を見ると、「授業に意欲的・積極的に取り組んだか」という「問1」に対して、2007年からこれまで同様に約7割の学生が肯定的に答えている（5. 強くそう思う+4. そう思う）。しかしながら、「問5」の「授業外」での学習となると、0時間と30分程度の学生が合わせて約76.1%にも上り、あまり学習していないことが分かる（しかしながら、2007年度は85.6%であり改善はみられている）。

次に、「問10」、「問11」の「文書編集」と「表計算」に関しては、それぞれ、61.6%、60.8%の学生が身に付いた（5. 強くそう思う+4. そう思う）と答えており、レディネス調査では、関連項目の多くで5割を超えていなかったことを考えると、授業の効果が現れているといえよう。しかしながら、経年変化を見ると、2007年度は、「文書編集」68.2%、「表計算」63.6%であり2項目の割合は落ちているので、今後、注意して見ていきたい。

「問6」の「成績評価方法について十分な説明があったか」については、肯定的に回答した学生が、40.9%であった。2007年度の割合が35.2%であり、2008年度が41.6%であったことを考えると、2007年度末に情報教育検討部会により策定された、「情報リテラシー実践の成績評価の指針」が、教員の学習評価への注意に若干影響した可能性がある。

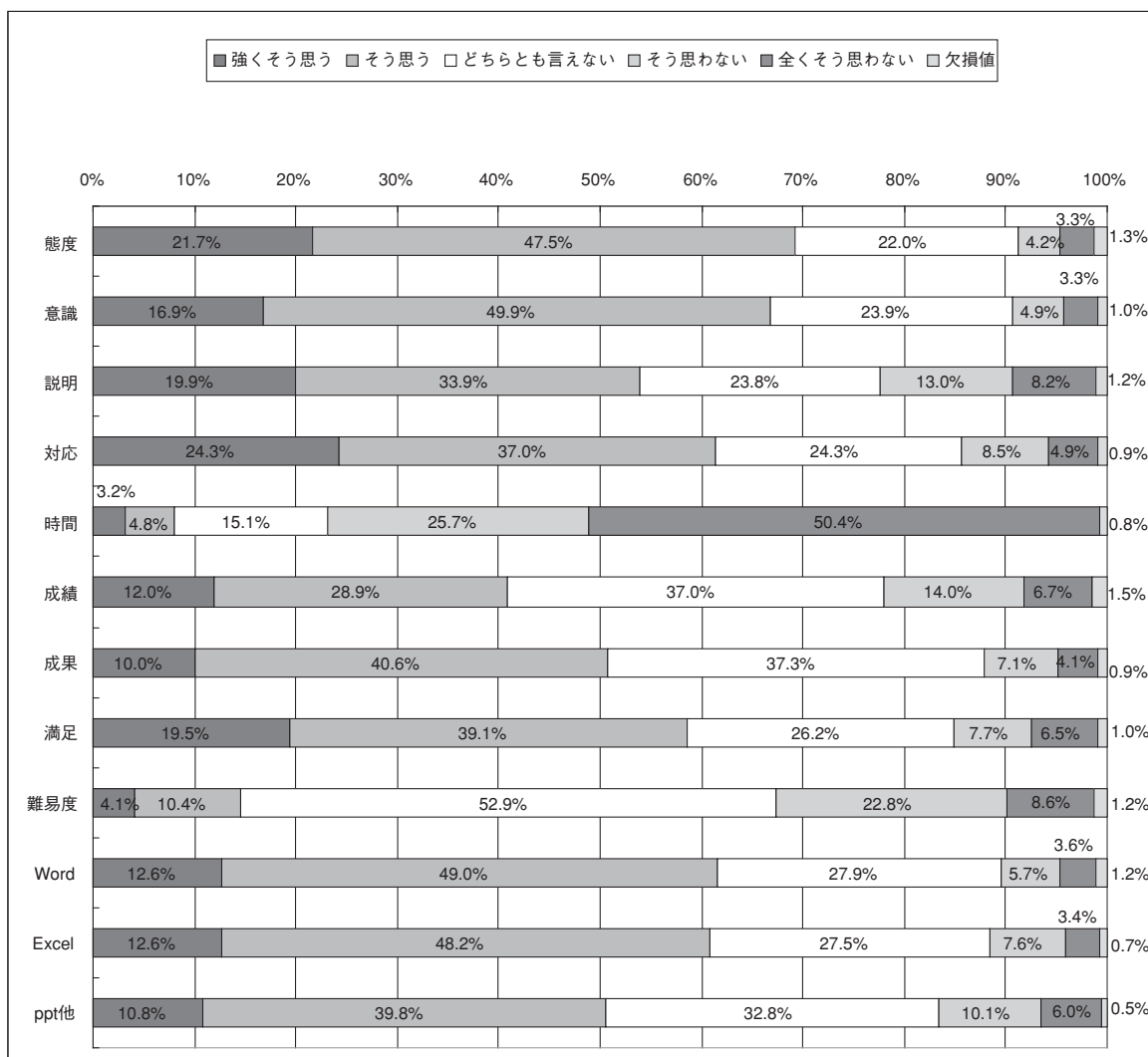


図1：SE回答の分布

基礎ゼミ	実践英語	情リテ	都市プロ	理工共通	平均
3.86	3.30	3.58	3.51	3.28	3.51

表1：他科目との満足度の比較

最後に、「問9」の「難易度」に関してだが、図1からは52.9%（2008年度53.0%）と半数以上の学生が「適切だった」と答えていることが分かる。また、容易（4. 易しかった+5. 易しすぎた）だという意識の学生が14.5%であるのに対して、難しい（1. 難しすぎた+2. 難しかった）と回答した学生が、31.4%であり、難しいと考えている学生の方が倍多いことも分かる。

更に表1から、他科目の中で情報リテラシー実践Ⅰは、比較的良い評価を得られているので、学習内容は概ね適切であり例年と同様に、学生に受け入れられていたと推察される。

図2は、TEの項目別平均値である。SEのそれと比

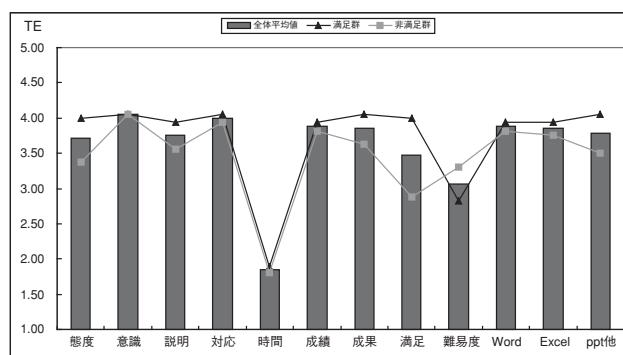


図2：TE項目別の平均値

較すると、「問9」「難易度」を除く11項目中9項目で、TEの方が高く、教員の方が授業に関して肯定的に捉えていることが分かる。中でも「問6」の「成績」はSE 3.26、TE 3.88と一番差異があり、成績評価方法の伝達に関して前述したように改善は見られるものの、未だ十分でない感がある。